

スポーツチームのシンボルの研究

A study of the symbol of a sport team

1K08B070-3 熊谷和樹

指導教員 主査 寒川恒夫先生 副査 石井昌幸先生

第一章 序論

現在のスポーツはただ単に体を動かして、勝敗を競い合うというような単純なものではない。主に世界のグローバル化の影響を受けてスポーツを取り巻く環境は日々変化し、スポーツの在り方はここ数十年で大きく変化している。私はそんな日々変化するスポーツの中にあって、変わることなく昔から受け継がれるものがある。そして、それがあからこそスポーツは人気があり、人々を感動させるのではないかと考えた。スポーツの中で変わらない部分。私はその中の一つにチームのシンボルの存在があると考えた。今回私は、その例としてサッカーチームのエムブレムと大学ラグビーの部歌について取り上げた。

サッカーのユニフォームにはほぼ必ずエムブレムが描かれている。まさしくチームのシンボルと言えるエムブレムだが、そのエムブレムにはどのような思いが込められ、何を表しているのか。今回は主にヨーロッパのチームのエムブレムについて述べていきたい。

日本の大学ラグビー特有のものである部歌。現在では試合前、アフターマッチファンクション、行事の際には必ず歌われるようになっていっている。今回は有名な大学ラグビー部の部歌を取り上げ、部歌の存在意義、完成までのエピソードなどを述べていきたいと思う。

第二章 先行研究

今回、「スポーツチームとシンボル」という関係の文献を探したが、発見することはできなかった。しかし、哲学、社会学、教育の方向からスポーツ自体をシンボルとして考えている文献を見つけることはできた。これらの意見を参考に、様々な角度からも研究し、意見を述べていくことができればと思う。

第三章 サッカーチームのエムブレム

サッカークラブのエムブレムには国ごとの特色がみられた。イングランドのクラブは、王室を重んじ、王家の紋章をモチーフにしているものが多い。スペインの、レアルの称号については民族問題からさまざまな意見があるようだ。また、

エムブレムのブランド化により、市や国の紋章を使っていたエムブレムは変更を余儀なくされた。

サッカークラブのエムブレムは昔から形を変えずに残っているというのではなく、その地域の歴史や民族問題、またグローバル化の影響を大きく受け変化していることが分かった。しかし変化していても、シンボルは大切にされており、チームの誇りであることは昔から変わっていない。

第四章 日本の大学ラグビーの部歌

部歌は部の設立と同時に作られ、しかも現在までほとんど変わっていないため、部の歴史や伝統を歌詞に載せているというわけではない。そもそも部歌は主に試合前に自分たちを鼓舞し、チーム一丸となって戦おうという自己啓発の意味が込められていたようだ。長い間歌い続けられるなかで、チームのシンボルとなり、アフターマッチファンクションで互いの健闘を称えたあうためやファンへの感謝の気持ちを表すものへと変化してきたのだ。

結章 考察

サッカーのクラブチーム、ナショナルチームのエムブレムについてのイメージは、昔から形を変えることなく、ずっとチームの誇りとして輝いているというものであった。しかし実際には、シンボルは時代の流れに応じて変化し、むしろチームの歩んできた歴史、変化を表しているものだった。大学ラグビーの部歌については、作られたときからほとんど形を変えることなく現在に至っている。部歌のもともとの存在意義は、闘志を高めるといった自己啓発の意味が強かった。それが長い間大切に歌い続けられることで、部のシンボルとなり、現在では互いの健闘を称えたり、関係者へ感謝をこめて歌われたりするようになったのだ。

シンボルは時代と共に形、意味を変化させている。そしてこれからも時代の影響を受け、変化していくのかもしれない。しかし、シンボルを大切にしているということは、今も昔も変わることはなく、シンボルを誇りに全力でプレーするからこそ感動が生まれ、スポーツはいつまでも人々に愛されるのだろう。